退職者を送る

量から質へ

広島大学長　田中隆荘

このたび，69名の退職の方々を送るにあたり，一言，お祝いのことばを申し述べます。

今年，定年をお迎えになられる方々，及び事情あって退職される皆さんは，長年にわたって大学の職務に精励され，職責を果たされたのであります。まことに御苦労でございました。精進された御努力と，積まれた御貢献に対し，こころから敬意を表わし，感謝を申し上げます。

この間，特に，戦後のわが国にあっては，大学は歴史上初めてともいえる，さまざまの急激な変革を経てきました。そのうえ，本学においては，統合移転とそれに伴う改革整備を実施し，それは今もなお途上にあります。この混乱期における多種多様の問題に対して，皆さんは中核にあって，身をもって職分を尽くされ，教育研究の進展に貢献されたのであります。その御努力が，本学の中に，また学術と社会に実りつつあるいま，皆さんには御満足とともに，無量の感慨がひときわでございましょう。

皆さんは，本学においては，多忙な中にもたくさんの仕事を支障なく処理してこられました。そのために努力された御経験は，皆さんの今後においてたいへん重要であると考えます。今後はこれまで以上に，日々を貴重に扱い，しかも日々の時間と仕事を工夫していくことができると考えるのであります。これまで公務によってやむをえない多岐にわたる仕事を，ひとつの時間の中で，並行して同時にこなすことによって，結果として多種多様な仕事を成し遂げてこられたのでありました。しかしこれからは，仕事は量としてよりも質として見ることに，比重をかけることができると考えられるのであります。定年は目を量から質へ転ずる機会であります。

その量から質へは，仕事についてだけでなく，時間についても同様であります。何ごとにつけ，時間を質として見るとき，新たな展望と希望が拓けるのであります。希望は仕事の手掛りであり，日々の生活の原動力であり，たとえ困難があっても，それを乗り越えるエネルギーを生み，新たな気力と意志を備えるのであります。これからも，世界や地域のため，また後継の世代の人々にとっての，豊かで富んだ住みやすい社会を残すために，皆さんの経験と知識と技術が発揮されることを期待します。

本学は，いま，統合移転の完了を4年後に控えて，新たな充実の機会を迎えております。このとき，皆さんを本学からお送りせねばならないことは，まことに残念でございます。皆さんに，これからも本学を見守っていただくことを希望します。

職務を全うして定年を迎えるということは，実にめでたいことであります。どうかこの上とも，御健康でありますよう深く念じて，お祝いのことばといたします。